

全日本学生自動車連盟九州支部 2014 年度総会議事録

日時 2014 年 12 月 20 日(土) 14:00～16:00

場所 九州大学 21 世紀プラザ 多目的室

出席：九州大学、九州工業大学、大分大学、西南学院大学、久留米大学、北九州市立大学、佐賀大学(*)、福岡工業大学、久留米工業大学、宮崎大学、九州歯科大学

欠席：福岡大学、崇城大学、熊本学園大学、熊本大学、九州産業大学、鹿児島大学

(*)は委任状提出校を表す

全加盟校 16 校中、出席 11 校（委任状提出校 1 校含む）

全日本学生自動車連盟九州支部規約第 6 章第 18 条 4 により、成立

議題 1 全日本学生自動車連盟九州支部活動報告

全日本学生連盟九州支部の 2014 年度における活動報告および、2015 年度における活動計画について下記の報告があった。

2014 年度活動報告

全九州学生選手権大会

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 全九州学生ダートトライアル選手権大会 | 5 月 4 日 (日) |
| SPEED PARK 恋の浦 (福岡県福津市) | |
| 春期全九州学生ジムカーナ選手権大会 | 6 月 8 日 (日) |
| SPEED PARK 恋の浦 (福岡県福津市) | |
| 秋期全九州学生ジムカーナ選手権大会 | 10 月 12 日 (日) |
| SPEED PARK 恋の浦 (福岡県福津市) | |
| 全九州学生ラリー | 11 月 8、9 日 (土、日) |
| 福岡県田川郡赤村、大任町及び添田町 | |

全日本関連

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 全日本学生ダートトライアル選手権大会 | 8 月 3 日 (日) |
| 広島県 テクニックスステージタカタ | |
| 全日本学生ジムカーナ選手権大会 | 8 月 23・24 日 (土・日) |
| 三重県 鈴鹿サーキット 国際南コース | |

全日本エコドライブチャンピオンシップ 2014	8月25日(月)
三重県 鈴鹿サーキット本コース	
全日本学生自動車運転競技選手権大会	11月16日(日)
東京都 日通自動車学校 杉並校	
全日本学生自動車連盟総会	11月16日(日)
東京都 日通自動車学校 杉並校	

2015年度活動計画

全九州学生選手権大会

全九州学生ダートトライアル選手権大会	未定(5月頃)
春期全九州学生ジムカーナ選手権大会	未定(6月頃)
秋期全九州学生ジムカーナ選手権大会	未定(10月頃)
全九州学生ラリー	未定(11月頃)

全日本関連

全日本学生ダートトライアル選手権大会	8月9日(日)
栃木県 丸和オートランド那須	
全日本学生ジムカーナ選手権大会	8月22・23日(土・日)
三重県 鈴鹿サーキット 国際南コース	
全日本エコドライブチャンピオンシップ 2015	8月25日(月)
三重県 鈴鹿サーキット本コース	
全日本学生自動車運転競技選手権大会	未定
大阪府 近鉄自動車学校	
全日本学生自動車連盟総会	未定

議題1は承認された。

議題 2 会計報告

2014 年度の会計報告がされた。

上田理事より全九州学生ラリーの補助金の額に間違いがあるとのこと指摘があった。また、上納金という表現は適切ではないのではないかという指摘もあった。

議題 2 は承認された。

議題 3 議決

10 の議案に関する議決が行われた。

議案 1 九州歯科大学 加盟了承のお願い

平成 26 年度の全九州学生ダートトライアル・ジムカーナ選手権大会において九州歯科大学は、全日本学生自動車連盟及び全日本学生自動車連盟九州支部に加盟していなかったために、選手権クラスへの出場が認められず、オープンクラスで出場している状況であった。

九州歯科大学から、平成 27 年度より全日本学生自動車連盟に加盟し、選手権クラスに出場したいという意向があったことから、当大学を全日本学生自動車連盟九州支部に加盟することの了承に関する議決が行われた。

上田理事より、「九州支部に 1 年加盟したあとでなければ全日本学生自動車連盟に加盟できない」とのご説明があった。

議案 1 は承認された。

議案 2 S タイヤの使用について

九州支部大会におけるジムカーナ及びダートトライアルの大会中での S タイヤについて、2010 年度の総会の決議により 2011、2012 年度は使用禁止、2012 年度の決議により 2013、2014 年度も使用禁止となっていた。今回も S タイヤの使用について再び審議された。

九州支部からは、決議の有効年は 2 年が適当であると述べられた。

福岡工業大学より、「何故 S タイヤが禁止されているのか？」という質問があった。これについては、コストの面や JAF 戦で禁止されていることが多いといった理由を述べた。

この決議の有効年は 2 年で承認された。

S タイヤの使用については使用禁止で承認された。

議案 3 成績に関する抗議（暫定時間）

平成 26 年度までの九州支部大会におけるジムカーナ及びダートトライアルの大会中の成績の抗議は該当クラスの暫定結果発表後 30 分以内までであり、その間は競技車の車両保管が原則であった。

しかし、これまでの大会では 15 分以内には抗議が出尽くしており、競技車両の撤収を早めに行いたいという要望も出ている為、来年度から抗議の時間を暫定結果発表後 15 分以内に変更するという内容で決議された。

議案 3 は承認された。

議案 4 オープンクラスについて

九州支部主催のダートトライアル及びジムカーナ大会のオープンクラスでは現在のところ、B2、M2、4WD及びSCクラスに参戦する以外のエントラントで構成されている。

このたび、オープンクラスを2分割し、シニアクラスとジュニアクラスを新設する提案があったため議論が行われた。

連盟からは以下の案が候補として挙げられた。

- ① ジュニアクラス（50歳未満）
シニアクラス（50歳以上）
※年齢は議論によって決定する。
- ② ジュニアクラス（大学在学、休学している者）※連盟加盟の有無は問わない。
シニアクラス（大学OB、社会人）
- ③ 現状維持（オープンクラスを分割しない）

これに関して柴田理事より、「②について、休学している者については連盟が責任を持ってないので、区別したほうがよいのではないか」とのご意見があった。

九州大学からは「②はどのような人を意図しているのか」という質問があり、免許を取って間もない人でも参加できるように考えていると回答した。また、「②に学生と同じ年齢の人も参加させてよいのではないか」といった意見も出た。

上田理事よりご指摘があり、「シニアクラスの創設は年配の方が参加しやすいように提案したものであり、まずシニアクラスを創設するかどうかの議決をとるべき」とのことであった。また、「オープンクラスとは別にシニアクラスを創設するのはどうか」といったご意見もあった。

上田理事のご意見より、議案の内容を、シニアクラスを設けるかというものに変更した。

ここで「シニアクラスの出場者はどのように集めるか」といった質問があり、規則書を見てもらうかOBが主体になると回答した。また、「シニアクラスには何台くらいのエントリーがほしいか」といった質問があり、5台以上ほしいと回答した。

さらに「オープンクラスで出場しても、在学生会は勝つことが難しくモチベーションが上がらないので、強い人をクラス分けしてほしい」といった要望が出た。これについては、オープン戦はとりあえずやってみようという意図で設けていることや、クラスを増やすと運営に負担がかかるだけでなく、クラス自体が成立しなくなる可能性があることを説明し

た。加えて、クラス内の1年生での順位をつけることも考えていることを説明した。

議案4はシニアクラスを創設するという議案で議決をとり承認された。

②については今後検討することとなった。

議案5 同一大学の表彰

団体クラスにおいて、同一大学で2チーム以上のエントリーが入賞した場合について議論が行われた。平成26年度は下記の②の方法で表彰を行ったが、同一大学で複数のチームを表彰するのは不自然であるという意見が出たため、その取扱いについてはなしあわれた。

当支部からは以下の2つの候補があげられた。

- ① 複数のチームでエントリーした場合は、最も上位のチームのみ表彰対象とし、それ以外の同大学のチームは表彰せず、他大学の順位を繰り上げる。
- ② 複数のチームでエントリーした場合は、入賞圏内に入ったすべてのチームを表彰対象とする。

この議案に関して②は適切ではないという意見が多く出た。まず、上田理事より、「②は選手が多い大学への救済であり過去の歴史からすると①が前提である」とのご意見があった。次に、柴田理事からも、「団体は大学代表として最強の1チームが出るべき」とのご意見が出た。大分大学からも、団体が複数出ている大学は有利なのではないかとの意見があった。

これに対し、九州工業大学より、「九州工業大学のように学部が別の場所にあり、部が別々で活動している場合はどうなるのか？」という意見が出た。

九州工業大学の意見については柴田理事よりご意見があり、「大学の体系は時代とともに変化しているので、場合によっては特別に複数のチームでのエントリーを認めることも必要ではないか」ということであった。これについては次の理事会で提案することとなった。

議案5は賛成多数で①が承認された。

議案 6 個人の部の車両規定の変更について

現在、全九州学生大会における個人の部の車両規定は、スピード SA 規定となっている。ところが、現在参加している個人車両の多くが規定以上の改造が施されており、運営側としても SA 車両規定にもとづいた車検が困難な部分が多かった。

そこで、個人の部の車両規定を改造範囲が広い B 車両規定に変更し、参加者が分かりやすく、運営側も車検がしやすいようにするということが提案された。

B 車両規定はナンバー付きが条件であり、公道走行可能な一般法規に基づいた車両という点では SA 車両規定と何ら変わらないというせつめいがあった。

柴田理事より、「SA 規定というところから B 規定に広げるということなのか？」というご質問があり、そのようになるということを説明した。また、「クラス変更が必要になるか？」とのご質問もいただき、クラス変更は必要ないと回答した。

議案 6 は承認された。

議案 7 個人の部の小排気量クラスの新設について

この議案については提案があった福岡工業大学より、議案の趣旨の説明があった。まず、提案をした背景として、以下の 3 つの理由が述べられた。

- I. 現在のクラス分けでは、軽自動車の肩身が狭く不公平。
- II. 世間では軽自動車が増えてきており、学生で所有している人も多い。
- III. 軽トラックなどのバリエーションが増えて面白いのではないか。

このような理由から、「軽自動車だけではなく小排気量クラスを作ってみてはどうか」という提案がされた。なお、ダートトライアルについては 4WD が有利なため、2WD と 4WD でクラスを分けることも検討しているとのことだった。

この提案を受けて支部内で議論した結果、以下の案が候補としてあげられた。

①「学部生 2 輪駆動小排気量クラス(B1)」の新設

既存の B2 クラスを分離する形で、小排気量車だけのクラスを新設する。

なお、排気量の区切りは、支部からは九州地区の JAF 戦を鑑み、1586cc を提案するが、660cc(2 輪駆動軽クラス新設)、1000cc、1500cc 等の他の提案があれば別途議論する。

②「軽クラス」の新設

駆動方式を問わない軽自動車のみを新設する。

なお、参加者を学生のみとするか、大学院生を含むかは別途議論する。

③現状維持

クラスを新設しない。

これに関し、柴田理事より「クラス分けが多くなり、学連の負担が大きくなるのではないか？」とのご質問があった。これに対して福岡工業大学より、「あくまで公平性を保つため提案した」との回答があった。

久留米大学からも2つの質問があり、1つ目は、「軽自動車が維持しやすく参加しやすいという観点から提案しているのか」という質問があった。これに対しては福岡工業大学より、その通りであるとの回答があった。2つ目は、「ターボ車両とNA車両では差がでるのではないか？」との質問があった。これに対して、福岡工業大学より「クラス分けの第一歩として現段階では考えている」との回答があった。ここで柴田理事より「ターボ車両とNA車両で差がありすぎると資金力が第一になる可能性があり、それは避けなければいけない」とのご意見があった。

柴田理事より、「この議案は意見が出すぎるため、①、②、③でとりあえず多数決をとるべき」とのご意見があったため多数決をとった。その結果、①が5票、②が4票、③が5票となったため、①と③で決選投票し①が承認された。

議案8 申込書類の変更について

この議案では、来年度より、記載内容及び様式を全面改訂した参加申込書、車両申告書を使用することが提案された。その理由として、平成26年度の全九州学生大会では、参加申込書、車両申告書ともに少なくとも10年前のものを改正しながら使用し続けていたため、記載内容の不足、様式が実際の大会運営に見合っていない等の問題があったことが述べられた。

具体的な変更点として、

- ①記入が難しく書かれていなかった項目を削除し、代わりに安全面についての項目を強化した。
- ②車検チェックリストを作成し、車検員の負担を減らすとともに、車検が正しく行われるようにした。

ということが述べられた。

これに対して柴田理事より2点ご指摘があり、「チェックリストを2つに分けて大学にもチェックさせるべき」ということと、「部長印を押すための欄が必要」ということが述べられた。

九州工業大学からも2点の指摘があり、「サイドバーと書かれているが、斜行バーではないか」、「排気量区分の欄が必要ではないか」ということであった。

さらに上田理事より、「チェックリストが、ダートとの整合性がとれていない」とのご指摘があり、「シートベルト等の、ダートについての詳細をチェックリストに加えるべき」とのことであった。

指摘のあった点については修正することとした。

議案8は承認された。

議案9 特別規則書の変更について

この議案では、来年度より、記載内容及び様式を全面改訂した特別規則書を使用することが提案された。その理由として、平成26年度の全九州学生大会では、参加申込書、車両申告書と同様に、少なくとも10年前の特別規則書を改正しながら使用し続けていたため、類似した内容が複数存在する、関連した内容が複数項目に分かれているなどの問題があったことが述べられた。

説明の際には、整理、加筆修正をした特別規則書を配り変更点を説明した。

これについて、上田理事よりご指摘があり、「第2条のところに九州支部という記載が抜けている」とのことであった。

大分大学からは質問があり、「参加車両名に大学の略称を使うことは可能か？」ということであったが、それは可能という回答をした。

議案9は承認された。

議案 10 新理事推薦

この議案については上田理事よりご説明があり、「久留米工業大学の自動車部顧問である林佳彦氏を新しく理事として推薦したい」とのことであった。柴田理事からも、「理事という役職の引き継ぎをしていきたい」とのことであった。

議案 10 は承認された。

議題 4 全日本から

全日本学生自動車連盟からの報告があり、フィギュア規則とスラローム規則を若干変更したので確認するようにとのことだった。

議題 5 九州支部から

九州支部から 2 点の報告があった。

まず、排気ガス測定を導入するというところで、秋季の全九州学生ジムカーナ大会の排気ガスの測定結果を配布し、説明した。

これについて柴田理事より、「排気ガス規定を満たさない車両は参加させないと明確にすべき」とのご意見があった。

九州工業大学からは、「測定はいつするのか」といった質問があり、走行前に行うと回答した。

林理事より「条件によって測定結果が変わるので条件を考えるべき」とのご意見があった。

九州工業大学から「明らかに触媒がない場合はどうするのか」という質問があり、その場合は処分を考えると回答した。林理事からも「学生として触媒装着を守るのは当然」とのご意見があった。

福岡工業大学からは、「ロータリーの係数はどうするのか」という質問があり、現状は係数を 1.0 としているが、ロータリーが多くなりすぎた場合は係数変更を考えると回答した。

次に、全九州学生ジムカーナ大会において、西南学院大学の SC 車両がスピードパーク恋の浦に放置されている問題を報告した。西南学院大学には早急な車両の撤去を要請するとともに、他大学を含めて、今後同様の事態が発生した場合は重大な処罰を科す可能性があることを周知した。

これについて上田理事よりご説明があり、12月27日には撤去するとのことであった。

議題 6 2014 年度常任委員の紹介

下記のように紹介があった。

常任委員長 九州大学 山田 拓也

常任副委員長 九州工業大学 池田 佳允、九州大学 伊藤 慶

会計 九州工業大学 近藤 員章

常任委員 九州大学 服部 航、九州工業大学 今門 利和

議題 7 加盟校から

九州工業大学より2点の意見があった。1点目は、「学生ラリーの特記書が上がっておらず、学生クラスについての記載がなかった」とのことであった。これについては ACK と学生連盟のつながりを強化し、学連から情報を発信していくこととした。

2点目は、「恋の浦のゲートオープンが午前6時30分なのに、車検開始も午前6時30分で余裕がなく、ゲートの前に並んでしまう」といった意見があった。これについては柴田理事からも「午前6時30分よりゲートオープンを早められないか」といったご意見があったが、これ以上ゲートオープンを早めることは厳しいと回答した。